

OB通信

鳳 翽

復刊第18号

= 2016年8月 =

山口大学ワンダーフォーゲル部OB会

鳳翽会

目 次

はじめに	鳳翔会会長 池富士 清	2
1 本部・支部連絡先		3
2 会長及び事務局からOBの皆さまへ		4
3 平成28年鳳翔会総会案内		6
4 各支部活動状況（平成27年12月～平成28年7月）		
(1) 東京支部 秋山 高弘		10
(2) 関西支部 池田 純		11
(3) 山口支部 古谷 眞之介		13
(4) 九州支部 龍 純二		15
5 会員状況		
(1) スイス山巡り自由旅行	東京支部 三浦 静止	16
(2) 岩殿山（634m）登山記	東京支部 蕙谷 浩	19
(3) 後悔しないうちに	東京支部 秋山 高弘	21
(4) 立花山と土器山	九州支部 本園 明信	22
6 現役活動報告		
(1) 執行部活動報告		25
(2) 春合宿報告		26
(3) 平成28年度山口大学ワンダーフォーゲル部活動計画表		27
7 編集後記		28

はじめに

猛暑が続く中、会員の皆様には、ますますご清栄のことと、およろこび申し上げます。

近年の気象をはじめ、自然現象は、予想しなかったことが起こる傾向にあります。

4月に、熊本・大分を襲った、地震では、多くの方が亡くなり、また被災されました。会員の中にも被災された方がおられるのではと心配しております。心よりお悔やみ・お見舞いを申し上げますとともに、一日でも早い復興を願うばかりです。

本地震においては、最初の大きな地震の1日余り後に、余震ではなく本震が発生、また、梅雨の豪雨についても、時間雨量に換算すると100mm超といったデータが報じられるなど、自然現象の脅威にさらされることが増加しているように思います。

ワングルは、専ら、野外での活動となり、自然現象と接する機会は、自ずと多くなりますので、日ごろから、一時流行った「想定外だった」という言葉では済まされなくなることを、心に留めておかないと、改めて感じているこの頃です。

さて、OB会執行部が新体制になって、早くも、半年が過ぎました。この間、執行部内で、前執行部からの引き継ぎ事項の理解に努め、今回、大きな事業であります、OB通信の発刊に、やっと、たどりたどり着くことができました。

まだまだ、不手際が多く、寄稿していただいた方をはじめ会員の皆さんの求めに対応できていない面もあるかと思いますが、ご意見を頂戴しながら、改善してまいりますので、ご理解のほど、よろしくお願ひします

私が、会長を務めることは、前号でお知らせしたところでありますが、他の役員についてはお知らせしていませんでしたので、この場を借りて、紹介したいと思ひます。

会長	池富士 清 (S47年農学部卒)	
副会長	田中 秀平 (S47年農学部卒)	田村 伊正 (S53年工学部卒)
幹事	八谷 孝徳 (S54年文学部卒)	三國 彰 (S55年工学部卒)
監査	平野 展康 (S59年経済学部卒)	斎藤 昌彦 (S60年農学部卒)
事務局長	浅川 佑二 (理学部4回生)	

OB会の運営に関しては、未熟な者ばかりではありますが、以上のメンバーで、これまで、歴代の執行部の皆さんが築いてこられた伝統をつないでいきたいと思ひます。

一方、現役クラブの状況ですが、本年4月、女子1名を含む11名が新たに入部し、部員総数が40名になったとの報告を受け、胸をなでおろしたところです。

会則の目的にあります「会員相互の親睦を深めること」を柱に、また、現役クラブあつてのOB会と思ひますので、現役の活動支援をもう一方の柱に据え、活動して参る所存でありますので、ご支援、ご協力のほどよろしくお願ひします。

終わりに、10月に、九州支部引き受けで開催します総会へ、多数の出席をお願ひするとともに、会員の皆様のご健勝、ご活躍を心よりお祈りします。

平成28年7月 鳳翔会会長 池富士 清

1 本部・支部連絡先

(本部)

OB会会長

池富士 清 (農・昭和47年卒)

OB会副会長

田中 秀平 (農・昭和47年卒)

田村 伊正 (工・昭和53年卒)

OB会幹事

八谷 孝徳 (文・昭和54年卒)

三国 彰 (工・昭和55年卒)

OB会事務局長

浅川 佑二 (経・4年)

(東京支部)

支部長 城戸 賢嗣 (経済・昭和49年卒)

副支部長 高田 哲生 (工・昭和49年卒)

事務局長 秋山 高弘 (経済・昭和53年卒)

(関西支部)

支部長 池田 純 (工・昭和51年卒)

(山口支部)

支部長 古谷 眞之介 (経・昭和52年卒)

(九州支部)

名誉支部長 永沼 嗣朗 (経済・昭和39年卒)

支部長 龍 純二 (文理・昭和50年卒)

事務局長 天川 雅紀 (農・昭和61年卒)

2 会長及び事務局からOBの皆さまへ

(1) OB会費の納入について

会費有効年を経過して会費未納の場合は自然脱会となりますので、会費の支払いはお忘れなきようお願い申し上げます。脱会になりますと、以後OB通信の発送等OB会からの連絡が途絶えることとなりますのでご注意願います。

会費有効年は、皆さまの宛名書きに記載していますが、今一度会費有効年を確認され、もし、相違している場合は、会長または事務局までお問い合わせ願います。

【OB会費の納入状況についての問い合わせ先】

会長 池富士 清

事務局長 浅川 祐二

会費有効年に応じて、鳳翺会新規(再)加入のご案内、会費納入について(お願い)、お知らせ、入会申込書、会則、郵便局払込取扱票を同封しています。新規(再)加入及び入会を継続される場合は、お手数ですが、同封の郵便局払込取扱票にて下記へ納入くださいますようお願いいたします。同封文書は次のようになっていますのでご確認ください。

- ア 新規加入の皆さま及びOB会費未納のため2014年までに会員資格を喪失された皆さま
鳳翺会新規(再)加入のご案内、入会申込書、会則、郵便局払込取扱票
新規(再)加入を希望される場合は、郵便局振込とともに、入会申込書を送付いただくか、必要事項を会長または、事務局までメールにてご連絡ください。

【送付先】

郵便番号 753-0841 住所 山口県山口市吉田1677-1 山口大学体育会内
宛先 山口大学ワンダーフォーゲル部

- イ 会費有効年が2015年及び2016年の皆さま

会費納入について(お願い)、お知らせ、郵便局払込取扱票

口座記号番号 01530-0-16050

加入者 山口大学ワンダーフォーゲル部

個人会員年会費 2,000円 夫婦会員年会費 3,000円

※ 年会費は、複数年分を一括納入することもできます。一括納入の場合は振り込み金額を単年会費の複数年倍としてください。個人会員の場合、年会費を1,000円の端数で納入されないようお願いします。

新規または再度会費を納入される場合は、会費の有効年は納入年からとして取り扱わせていただきます。

(2) OB通信の送付について

OB通信は本来会員の皆さまだけに送付することになってはいますが、今回発行のものは住所を把握できているOBの皆さま全員に送付しています。ただし、脱会の方は除外しています。

(3) OB通信への寄稿について

事務局では、皆さまからのOB通信の寄稿を常時受け付けています。OB通信への掲載を希望される場合は、事務局まで原稿を提出ください。なお、OB通信の発行の準備の都合上、原稿の提出期限は次のとおりお願いします。

なお、OB通信の内容等についてご意見がありましたら、会長及び事務局長までお寄せください。

8月発行分	7月中旬
12月発行分	11月中旬

(4) 転居先連絡のお願いについて

OBの皆さまの住所確認については万全を期していますが、OB通信の発送の都度、数通が転居先不明で返送されてきます。その後、お知り合いの方に転居先を確認し再送していますが、OB通信の送付が遅れる原因になっています。

転勤等で住所を移転された場合は、速やかに会長及び事務局長まで連絡願います。

3 平成28年鳳翔会総会案内

山口大学ワンダーフォーゲル部OB会「鳳翔会」会員各位

2016年8月吉日
九州支部長 龍 純二

2016年度 OB総会開催のご案内

拝啓、盛夏の候、OB会員の皆様には、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。
昨年の総会での予告通り、2016年のOB総会は九州支部の担当で開催いたします。
今年度のOB総会は、立花山・志賀島で行うことにいたしました。クスノキ原生林の立花山、
玄界灘の雄大な景色と歴史の宝庫である志賀島、山と海の両方を楽しんでいただけたと思います。
どうぞ奮ってご参加下さい。

敬具

※出欠連絡 同封のハガキを9月10日(土)までに投函下さい。

記

- 1) 開催日時 2016年10月22日(土)～23日(日)
受付開始：15:00
総会 : 17:00～17:30
懇親会 : 18:00～20:30
- 2) 開催場所 総会・懇親会・宿泊場所：
休暇村志賀島(福岡市東区大字勝馬1803-1)
TEL: 092-603-6631
- 3) 参加費 @15,000円(宿泊+懇親会+朝食付き)
※宿泊は原則、和室4～5名部屋です。
※洋室ツイン部屋は、プラス1,500円追加料金が発生します。
部屋数に限りがあるので、ご希望に沿えない場合があります。
※宿泊なしの限り場合@8,000円
※宿泊については10月12日以降キャンセル料がかかりますので、
変更の際は10月11日までにご連絡下さい。

4) 散策コース

10月22日(土) 【クスノキ原生林と山頂からの博多湾～海ノ中道・志賀島の展望】

Aプラン：立花山登山コース(歩行時間：約3時間、標高差: 330m)

集合場所：JR香椎駅前 11:30(受付開始 11:00) ※雨天のときも集合下さい。

西鉄香椎駅前 11:45 ===(バス)=== 下原 11:53 登山開始 12:00・・・クスノキ原生林 13:00・・・立花山頂上(367m) 13:30 13:50・・・下原 14:50 14:58 ===(バス)===
西鉄香椎駅前 15:07 JR香椎駅 15:17 ===(JR香椎線)=== 西戸崎 15:42 ===(休暇村マイクロバス送迎)==== 休暇村着 16:00頃

※JR香椎駅までは、博多駅発鹿児島本線上り準快速(門司港行)にご乗車下さい。

(博多 11:04===香椎 11:14) ※荷物はJR香椎駅前で実行委員が預かります。

10月23日(日) 【玄界灘の大パノラマ展望台と古代から安曇族が護る志賀海神社】

Bプラン: 志賀島ウォーキングコース(歩行時間:約2時間、歩行距離 約6km)

集合場所: 休暇村ロビー 8:20 (受付開始 8:00)

ウォーキング 休暇村スタート 8:30・・・8:40 中津宮・・・8:50 勝馬口・・・
9:20 潮見展望台 9:30・・・火焰塚 10:00・・・10:20 志賀海神社 10:40・・・
10:50 志賀島港解散

解散後のルート

市営渡船利用(天神・博多駅へ)

志賀島港===(市営渡船)===博多埠頭===(バス)=== 天神 又は 博多駅
11:00 11:30 約10分 約15分

バス・JR香椎線利用(香椎駅・博多駅へ)

志賀島===(バス)=== 西戸崎===(JR香椎線)===香椎====(鹿児島本線)=== 博多駅
11:36 11:48 11:54 12:15 12:26 12:40

5) ホテルへのアクセス (立花山登山コースに参加されない方への案内です。)

【JR利用の場合】

■ JR博多駅から



例) 13:24 13:34 13:38 14:03 14:25 14:45
15:04 15:14 15:17 15:42 15:45 16:05

※ JR西戸崎からのホテル送迎バスは予約が必要になります。事前に休暇村へ予約下さい。

◎ JR西戸崎駅前には案内人が待っています。

【飛行機利用の場合】

■ 福岡空港から

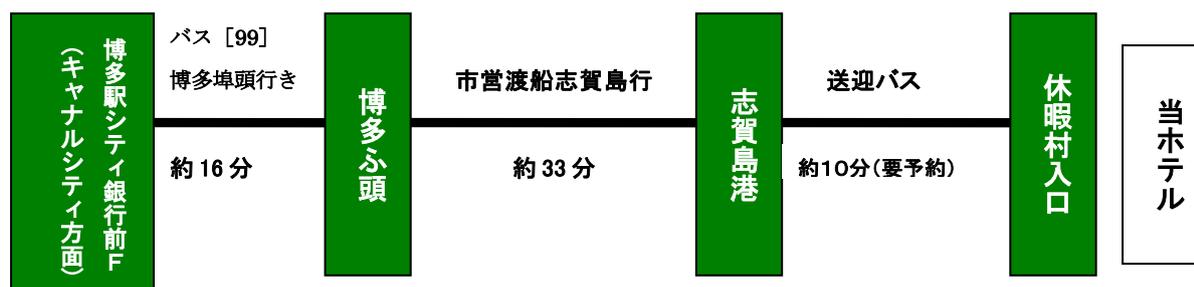


例) 13:06 13:12 13:24 13:34 13:38 14:03 14:25 14:45
14:45 14:51 15:04 15:14 15:17 15:42 15:45 16:05

※ JR西戸崎からのホテル送迎バスは予約が必要になります。事前に休暇村へ予約下さい。

◎ JR西戸崎駅前には案内人が待っています。

【市営渡船利用の場合】(天気がよければデッキから博多湾の景色が楽しめます。)



例) 13:29 13:46 13:55 14:25 14:35 14:45

※ JR西戸崎からのホテル送迎バスは予約が必要になります。事前に休暇村へ予約下さい。

6) 帰りのルート (志賀島ウォーキングコースに参加されない方への案内です。)

休暇村マイクロバス送迎 (8:40 発 または 10:00 発) 利用

(JR 香椎線) 休暇村 === 西戸崎 === (JR 香椎線) === 香椎 === 博多駅

8:40 発 8:55 9:08 9:33 9:35 9:45

10:00 発 10:15 10:33 10:54 10:57 11:08

(市営渡船) 休暇村=== 志賀島港=== (市営渡船)===博多埠頭 ===天神 又は 博多駅

8:40 発 8:50 9:00 9:30 約 10分 約 15分

10:00 発 10:10 10:20 10:50

7) その他

割引の利用

JAF の割引がありますので、JAF 会員の方はカードを持参下さい。

受付のときに提示して下さい。

JAF カード 1 枚で 5 名まで基本宿泊料の 10%割引されます。

なお、割引額はOB総会の経費に充当させていただきますので、予めご了承下さい。

8) 連絡先

九州支部事務局長 天野 雅紀 (携帯：080-4278-2048)

九州支部長 龍 純二 (携帯：090-9580-2384)



3月5日志賀島にて

4 各支部活動状況

(1) 東京支部 H28年上期 活動報告

事務局 秋山高弘

東京支部では、年間に 懇親会2回（新年会、暑気払い）、近郊の山登り2回（春・秋）を基本的な活動としており、H28年上期の活動実績並びに今後の予定は以下の通りです。

【実施済み】

1月30日（土） 新年会 参加27名

北海道 八重洲店 13:00~15:30 昼呑み宴会

二時間半飲み放題コース（会費4千円）

27名が集まったの大宴会となりました。

日経新聞に、昼呑み宴会が流行っている、安いしサービスも良い、とありましたので、趣向を変えてトライしてみました。

こんな昼から宴会やる人はいるのかなと、恐る恐るでしたが、なんとお年よりのグループで満席状態。びっくりしました。

参加した支部の皆さんも、明るいうちに帰れるのがいいねと好評でした。

と言っても、私は同期と二次会に出かけ、結局家に帰ったのはいつもと同じ時間でしたが・・・。

5月14日（土） 岩殿山（634m）登山 参加17名

岩殿山は山梨県大月市にある山で、山頂にある岩殿山城は、歴史に登場するお城でもあります。634mは奇しくも東京スカイツリーと同じ高さです。

当日は霞がかかったような天気で、富士山を眺めることが出来なかったのが残念でしたが、新緑とさわやかな山の空気を楽しむことが出来ました。

詳しくは、本誌中「岩殿山登山記」をぜひご覧ください。

【今後の予定】

8月6日（土） 暑気払い 17:30~

新宿三井クラブ

新宿高層ビル群の一角にある、夜景のとてもきれいな会場です。

暑さを忘れ、大いに飲み、食べ、歓談する予定です。

以上

(2) 関西支部活動紹介

関西支部 池田 純

【2016 年前半 関西支部の活動紹介】

- 2月5日（金） 7：00より懇親会（ 遅めの新年会 ）を開催しています。
参加者は下の表に示しております。

参加者	卒部年度	
上田 功	1973	経済
池富士 芳雄	1974	工
伊藤 浩二	1975	経済
金子 龍太郎	1975	文理
箱田（長谷）貴代子	1970	文理
尾儀 一郎	1975	工
池田 純	1976	工
秋山 泰寛	1977	工
田村 浩三	1978	文理
森 裕子	1978	文理
権藤 雅明	1981	
池田（梶村）久美、	1979	

池田（梶村）さん、権藤さんは初参加です。



懇親会ですがおおよそ次の活動方針を決めております

1. 17年度に開催予定のOB会を関西支部でお受けする件
 - 1) 本部より要請があれば支部として引き受ける
 - 2) 引き受けた場合、いろいろ意見はありますがいつも通り京都のいろは旅館としたい。
 - 3) その時の山行は、伏見あたりが有望だが今後調査して決定したい。

2. 事務局の件

本部より、支部長の下に事務局を置いてくれとのお願いがありましたが、田村浩三君にやっていただくことになりました。

3. その他

①ちょっとした活動の計画を募集しております。今回銭広さんの環状線一周ウォーキングの紹介がありました。

②毎月第3土曜日 9:30 天王寺駅集合（駅のどこかは聞きそびれましたが、大阪駅のように広くないのでわかるでしょう。） 情報仕入れてくれれば幸いです。
その後箱田さんより詳細連絡ありました。

③OB総会の前に、9月ごろ懇親会を予定しております。

④OB会員の方で、関西に異動になったとか就職したとかいう方がおられたらぜひ一報ください。

関西支部 支部長

(4) 山口支部活動状況・春のイベント「男岳登山」

古谷眞之助

本年から山口支部長を拝命した S52 経済卒の古谷眞之助です。どうぞよろしくお願い致します。支部長就任に当たって、①山口支部名簿の更新、②エリアリーダーによる各市の非会員の正式会員への勧誘活動、③春秋のイベント定例化という活動方針を挙げ、「何かと集まる山口支部」「何かと飲む山口支部」「ユニークな活動をする山口支部」を目指してゆくことにしています。どこまで実現できるか、やや不安な面もありますが、それはさておいて、6 地区のエリアリーダーも決まりましたので、今後の山口支部にご注目下さい。

さて、春のイベント第一弾として、その昔、錬成でお世話になった男岳登山を実施しました。今や新日本百名山として人気高い東鳳凰山でなく、敢えて「錬成の山・男岳」を選びました。かつて、JRバスで佐々並まで行き、そこから歩き始めて黒ヶ谷で幕営。翌日は女滝川をつめて、やがて尾根に取りついて男岳山頂に至り、滑る急坂を下って高津集落へ。さらに東鳳凰を越えて大学まで戻るといふ今ではとても考えられない錬成コースを、合宿前には消化することが必須でした。そんな男岳になぜ今？ 40 数年の歳月は恐ろしいもので、現在、女滝川沿いに林道が延びていて、林道終点まで車で入れば、そこから山頂まではざっと 1 時間というハイキングコースに変貌しているのです。ただし、山頂はクマザサに覆われて展望は効かず、その手前の小ピークからは東西鳳凰が、さらに手前のロボット(自動雨量計設置の建物)付近からは、秋吉台、桂木山、鯨ヶ岳などが望めます。

日本上空に高気圧がデンととどまって晴天だった 5 月 21 日の午前 10 時、以下の 8 名が佐々並・道の駅「あさひ」に集合したのち車 2 台に分乗して林道終点まで移動しました。



【女滝川林道の終点 背後の左方向の小さな沢をつめて尾根に至り、山頂に至ります】

52 経・古谷 眞之助、52 文理・古谷(田島)恵子、52 文理・松永(酒井)初恵、
54 文理・八谷 孝徳、55 工・三國 章、同夫人・敦子、57 理・坂田 信一、
59 経・平野 展康 【敬称略、年寄り順】

第一回のイベントにしては参集人数が 10 名弱だったのは、もしかすると「男岳」のせいだったかも知れません。しかし、沢沿いの道を 15 分歩いて尾根に取りつき、それから 45 分急登に耐えて、11 時 35 分山頂到着。登山開始から約 1 時間の行程でした。



【山頂手前のピークから 背後に見えるピークが東鳳凰山】

ロボット付近で昼食の後、下山して佐々並まで戻り、「萩往還語り部の会」のシニアガイドをやっている私の案内で、2011 年に文部科学省によって「重要伝統的建造物群保存地区」に指定された佐々並の街の歴史的背景などを解説しながら、約 1 時間かけて歩きました。是非、皆さんも歴史街道「萩往還」(萩～防府の全長約 53km)を体験されてみてはいかがでしょうか。3～4 日が目安です。いつでもご案内致します。

山口支部の次回、秋のイベントは、「どこかの島で BBQ」ということになるかも知れません。是非多くの方のご参加をお待ちしています。



(5) 九州支部活動報告

九州支部長 龍 純二

1月30日(土) 新年会(OB総会準備会キックオフ) 10名
今年OB総会の引受けの年なので、新年会はOB総会準備会のキックオフとして開催しました。いつもの大名つつじ庵に10名。

3月5日(土) 志賀島ウォーキング(OB総会散策コース下見1回目) 8名
JR香椎線経由が6名、市営渡船から2名志賀島港で合流し、志賀海神社への参道からウォーキング開始。志賀海神社～火焰塚～潮見展望台～勝馬口～中津宮～休暇村志賀島お天気にも恵まれて気持ちよいウォーキングでした。休暇村では金印の湯で汗を流した後、宴会場、宿泊部屋の下見をしました。

3月21日(土) 立花山(OB総会散策コース下見2回目) 4名
当初の予定日が雨のため順延。風が冷たい1日でしたが、頂上からは眺望がとてもよく、海ノ中道・志賀島、遠く沖ノ島まで見えました。

4月2日(土) 土器山(かわらけやま)・えひめあやめまつり 7名
当初、志賀島の金印公園を回るコース下見の予定が、金印公園が12月まで工事のため中止になったので、佐賀・神埼の土器山(かわらけやま)とえひめあやめまつりに行きました。12年に一度、申年にお祭りのある仁比山神社にもお参りしました。

4月23日(土) 懇親会(OB総会実施計画確定) 7名
懇親会兼OB総会実施案の検討。

5月22日(日)～23日(月)
久住山とミヤマキリシマ鑑賞 4名
永沼さんの以前からの希望で、鉾立峠～白口岳のコースを登る。
熊本震災の影響で法華院温泉山荘も人が少なかったようです。

6月11日(土)
立花山(OB総会散策コース案内人養成) 5名
案内人養成と本番の時間でのシミュレーションを実施。

6月25日(土)
OB総会準備会 11名
OB総会実施案の検討。
大名つつじ庵。
参加者：永沼、秋山、武富、本園、山本、笹田、前田、光山、池田、天野、龍



5 会員状況

(1) スイス山巡り自由旅行

東京支部 昭和47年工学部卒 三浦静止

16年ぶりにスイスへ行きました。今回は夫婦旅行。前はパラグライダーのフライトが目的で、山巡りも観光も、ほとんどできなかった。今回は「絶対マッターホルンとアイガーを見るぞ！」を目標とし、予備日をしっかりとって行程を組みました。紙面の関係で、山とハイキングに絞り、観光の部分は省略しました。興味をお持ちの方は、お知らせ頂ければ「旅行記本編」をお送りします。

6月10日(ジュネーブ)

ジュネーブ到着後、旧市街を散策したが、「宗教改革記念碑」が圧巻。(詳細省略)



マッターホルンと初対面!

6月11日(レマン湖周辺)

シヨン城と、世界遺産「ラヴォー地区のぶどう畑」観光後、ツェルマットへ移動。(詳細省略)

6月12日(ツェルマット)

部分的に青空が見える程度の天気だが、天気予報を信じて本日がベストと判断、グレーシャーパークラダイスへのロープウェイ乗り場へ。見えた!マッターホルンと最初の出会い。ガスがまとわりついていて、一応全貌が見える。やった!朝一で最初の目標達成。登り始めてからも、雲とマッターホルンとのコラボが楽しめた。ドピーカンでは見られない景色。午前中は大満足。午後からは、ゴルナーグラートへ。もう雲底が下がり、高い山は見えない。でも、ゴルナー氷河をはじめ、氷河は全部見える。帰りにローテンボーデンで降り、リッフェル湖を見る。リッフェルベルクまで歩こうと思っていたが、残雪が深く、湖までも近づけない。踏み跡がない。ハイキング道はクローズのようだ。湖自体も凍っていて、山を映すところではない。どのみち、山は雲の中。



ゴルナー氷河は全貌が見える



ライ湖の周りは遊園地だ!



旧市街のスイスの伝統的な家



お墓の心打たれる惜別の言葉



ビューポイントから



ガスの上からピークを見せるマッターホルン



マッターホルンと雲のコラボドピーカンでは見られない風景



リッフェル湖周辺は残雪が多い



スネガからの下り山は見えないが良い雰囲気



ホテルの部屋から夕暮れのマッターホルン

マッターホルンは見えないが、古い村がある。

ツェルマットへ降りてからも、旧市街へ行くと、スイスの伝統的な家が保存されていた。午後は、まず教会、墓地へ行く。墓石にマッターホルンで死んだ人の遺言や惜別の言葉があり、胸を打たれる。ビューポイントで粘ってマッターホルンの山肌を見、博物館へ。これは見所有り。昔の登山道具の貧弱さに驚く。ホテルへ帰ってみたら、窓から夕暮れのマッターホルンが見えた。ずっと曇で気が付かなかったが、マッターホルンビューの素晴らしい部屋だったのだ。

6月14日（ベルン、トゥーン湖）



ホテルからのアイガー北壁

朝のマッターホルンビューを期待したが、全く雲の中。早々に出発。世界遺産の「ベルンの旧市街」を観光し、トゥーン湖を遊覧してグリンデルワルトへ移動。（詳細省略）

6月15日（グリンデルワルト）

朝起きてカーテンを開けたら、目の前はアイガー北壁！すごいホテルだ。今のところ天気は抜群。山岳天気予報でも、下よりも山頂の方が天気の良いとのこと。

6時過ぎに切符売り場が開いているとのネット情報を感じ、起きたら直ぐに買いに行く。一番電車でクライネシャイデックへ。曇ってはいるが、ぎりぎりアイガーからユングフラウまで見える。

線路は長いトンネルに入る。途中駅で、アイガー北壁に空けた窓から、雲底は低いが遠望が見える。遂にヨッ



スフィンクス展望台からのメンヒ



クライネシャイデックからのアイガーとメンヒ



同じくユングフラウ



同じくアレッチ氷河



同じくユングフラウ

ホ駅へ到着。スフィンクス展望台へ上り、山々の眺望を楽しむ。メンヒ、アレッチ氷河、ユングフラウの全貌を見ることができた。屋近くになると、朝一とは違い、すごく混んできた。我々は2時間以上粘ったが、中国やインドだけでなく世界各国の団体客が、そろそろと来ては直ぐに帰っていく。

帰りは、私だけアイガークレッチャー駅からクライネシャイデックまでハイキングする。何処がアイガー氷河？温暖化で後退した？確認できず。山は残念ながら雲の中。

マッターホルンに続いて、また初日で、なんとかアイガー、メンヒ、ユングフラウを見ることができた。神様が我々の祈りを聞いて雲を割ってくれた？

6月16日（グリンデルワルト）

今日は予備日。雨は降っていないが、雲底は低く、フィルストは完全にガスの中。行かないことに決定。午前中は、ホテルにもらったバスのフリーパス券を使い、グリンデルワルト内の2箇所を小旅行する。

午後は、急遽トリュンメルバッハの滝を見に行く。これは圧巻だった。まさに、洞窟の中の滝！山ばかりでなく、これは計画に入れておくべき名所だ。



少し遠景からの赤い電車

6月17日（ルツェルン）

ピラトスとルツェルン市内観光へ行く。ピラトスの登山鉄道は、こんなのを19世紀に作ったの！という、聞きしに勝るもの。残念ながら山頂付近はガスの中。（詳細省略）



ピラトスの登山鉄道

6月18日（氷河特急ルート、ランドヴァッサー橋）

世界遺産の氷河特急ルートの景観を楽しむ。我々が乗ったのは、氷河特急電車ではないし2等だが、長所は、窓がスライドできて写真が撮れること。トンネルの中で開けていると、マナー違反だと怒られた。

途中の駅で降り、私だけランドヴァッサー橋の見学をする。往復1時間以上の行程で、1時間に1本の電車を写すので、2時間が必要。時間に余裕はあると踏んでいたのにノンビリし過ぎ、出発前に20分をロスしたが、駅前にあったハイキング地図の写真を見ながら進み、良いペースで近くまで到着。ここで、撮影ポイントの看板につられてルートをミスリ、また時間ロス。橋の真下まで行くと、電車の来る時間に間に合わない危険性があったので、少し離れた所から電車の通過を撮る。その後、真下まで行って迫力の写真を撮る。駅までの帰りは、高低差100m位の登りとなる。電車に遅れたくな

いので、私にしては、かなり早いペースで歩く。体調は良い。結果は 15 分前に着いた。再度、氷河特急ルートを進み、サンモリッツの湖畔を少しだけ楽しんで宿泊地サメダンへ。

6月19日（ザンクトガレン）

世界遺産「ザンクトガレンの修道院」観光後、チューリッヒ空港へ。（詳細省略）

6月20日（帰国）

成田に着いてみると、荷物が届いていないとのこと。なんと、往復共だ！こんなこともあるのか！荷物の遅延、家内の怪我などトラブルもあり、曇や雨の多かった旅行だが、肝心のところだけ、幸運にも、目標の山々を見ることができました。思い出深い旅行でした。

(2) 岩殿山 (634m) 登山記

東京支部 昭和 47 年卒 文理 恵谷 浩

- ① 登山日：2016 年 5 月 14 日 曇り時々晴れ
- ② 参加者：村上、三浦、木村夫妻、高田、原口、高津、佐々木、乙咩、熊谷、小林、石津父娘、松永、城戸、秋山、恵谷
- ③ 登山ルート：大月駅 —— 岩殿山山頂 (634m) —— 天神山 —— 稚児落とし —— 県道 512 号・金山大月線 —— 大月駅
- ④ 登山記録

大月駅に 9:40 登山メンバー 17 名が集合。山梨県大月市にあり、東京スカイツリーと同じ高さ 634m の新緑に映える岩殿山を目指す。途中、ふれあいの館（岩殿城などの資料展示）の横をとおり、リニア新幹線が通る大月市街地と高川山 (975m) を望む。今日はあいにくの曇り空のため富士山が見えず残念。一昨年 5 月 17 日に OB 会東京支部で登った高川山からは天気が良くて富士山が見えたのに。

岩殿山山頂と兜岩・天神山・稚児落としとの分岐点を過ぎ、岩殿城の揚越戸（第 2 城門）跡、番所跡、二の丸跡を経て本丸跡 (634m) へ。

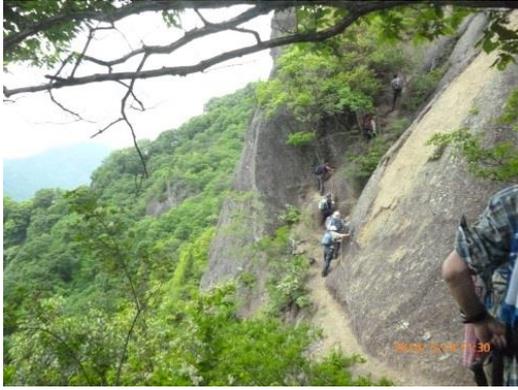


二の丸跡からの大月市街（富士山は雲の向こう）



岩殿城本丸跡（山頂）にて

岩殿城は戦国時代の武将・小山田信茂の居城で難攻不落といわれた名城。NHK 大河ドラマ「真田丸」のように、織田・徳川連合軍に攻められた武田勝頼が当時勝頼の家臣であった真田昌幸の岩櫃城への迎えを断り、岩殿城へ向かうが家臣・小山田信茂の裏切りで城門から入れず、哀れ天目山で自害、武田家滅亡。裏切った信茂はその後、織田信長に出仕するが裏切り者は不用と処刑された。なるほど、これまでの登山コースからすると、岩殿城は難攻不落で信茂が裏切らなかったら、歴史が変わったろうと思うのは考え過ぎか。岩殿山山頂から、一旦先程の大月駅と岩殿山への分岐点へ引き返し、兜岩、天神山、稚児落としへと向かう。



天神山への途中の鎖場を前に



稚児落しの大岸壁を望む

登山参加者中、72歳・最高齢だが同年代の数名が進むのを見て、巻き道(一般道)に逃げず、鎖にヒヤヒヤしながら、稚子落しに到着。稚子落しの名称は、岩殿城落城のとき子供が泣き止まないため、追っ手に気づかれるのを恐れ、谷底へつき落とされたという悲話からきたそうである。

稚児落としにて昼食・休憩。腹がふくれると疲れもあり、眠気でウトウト昼寝でもしたいが、OB会東京支部事務局長の声でさー、下山開始。急坂の下りが膝関節にこたえながら、県道512号線へ下山。舗装道路を大月駅へ。地図に表記のコースタイムは3時間30分であるが、昼食、休憩時間を入れても実績は4時間15分だった。よく頑張ったもの。

大月駅前の居酒屋・かつらで全員の安全登山終了を祝して乾杯。久しぶりの冷たいビールと冷焼酎が腹にしみる。やはりビールと疲れか、わけなくウトウト・ポーとしてしまった。大月駅発 15:40の電車で居眠りしながら帰宅。



居酒屋・かつらで祝杯

以上

(3) 後悔しないうちに

東京支部 秋山高弘 (S53 経済卒)

近ごろ気に入っていたものが突然無くなってしまふことが多い。

それは、場所であったり、店であったりするのだが、いつの間にか無くなっていて、しまったと言うことになる。

最近ショックだったのは、夫婦でいつも行っていた八ヶ岳のゴルフ場が昨年 12 月につぶれてしまったことであった。年が明けてそろそろ春の予約でもするかとホームページを開いたところ、「破産申立てのお知らせ」があったのである。

このゴルフ場は 50 年の歴史を持ち、このOB通信 2013 年 8 月号にも「ささやかな夢」と題して、「更に 50 年後私たちの子や孫がこの高原のゴルフ場でプレーしているだろうか」と書いたのに、なんとそれから数年も経たないうちに私たち夫婦の「ささやかな夢」もあっけなくつぶれてしまったわけである。

お店（私の場合多くは飲食店）について言えば、いい店なんだけどつぶれそうだなと感じ、近いうちにまた来ようと思っていた店が、ある日前を通ってみるとやっぱり無くなっていたということが多い。

私はそういう店を「絶滅危惧店」と分類していて、例えばお年寄りの主人が営んでいるが後継者がいなさそうな店、とてもレトロで雰囲気はいいのだがいすれ取り壊されてしまうだろうと予感する店、などなどである。

今ぱっと浮かぶだけでも 7～8 店あるのだが、無くなる前にもう一度行っておこうと思いつつも、億劫でなかなか足を運べない。そうこうするうちに突然閉店してしまい後悔することとなる。

多分こういったことは若い時からいくらかでも身近にあったことに違いないが、その頃はまた他があるさ と気にもしていなかったのであろう。

結局のところ、年をとって新しく得るものよりも失うものの方が多くなってきて、失ったものを意識するようになったということにちがいない。

では、どうすればいいのだろうか。月並みだが、お店が開いているうちに、ゴルフ場が開場しているうちに、また行こうと思っているうちに、ちゃんと行っておけよということに尽きるのではないか。相手だけではない。これからは自らも様々な理由で「ある日突然」となるかも知れないのだから。

と言う訳で、「後悔しないうちに」とつぶやきながら、酒場をうろつく今日この頃である。

(単なる酔っぱらいの たわ言 ← 娘より)

以上

(4) 立花山と土器山

九州支部 昭和50年卒 文理 本園 明信

1 立花山

平成28年3月21日(月)

下原バス停(10:26)→下原コース→立花山樟原始林→大クス→立花山(12:07)
→三日月山→下原バス停(14:30)

参加者 秋山 龍 清家 本園

東アジアの地図上に、福岡を中心軸として同心円を描いてみる。目測だが、釜山は広島と、ソウルは京都と、上海は東京と同じくらいの距離である。九州が朝鮮半島や中国大陆とこれほどの距離なのだから、深いつながりを持っているのは自然なことと思われる。玄界灘に面するところには、唐津(佐賀県)、唐人町(福岡市)、加布里(糸島市)など、大陸交流のなごりを感じさせる地名も点在している。

今回の立花山は標高367m。晴天であれば、博多湾の展望が大きく開け、金印出土地で有名な志賀島から福岡市街まで見渡すことができる。海を見ながら、福岡とアジアとの交流を間近に想像することのできる山である。2年前、トレーニングを兼ねて一人で登った時には大雨であった。山頂から何も見えなかったし、大クスも見えていない。今回の山行では、頂きから何とか海を見たいと思っていた。

天神にある郵便局前から下原行きの西鉄バスに乗る。都市高速を経由して30分余りで立花山登山口に着く。下原の手前で香椎を通る。香椎は松本清張「点と線」の舞台になっている街でもある。古くは万葉集にも《香椎の瀉に白妙の袖さへぬれて朝菜つみてむ》などと登場する。下原に着くと、気温はそれほど高くないが、好天で青空が美しい。登るコースは下原からクスの木原生林を通して大クスを見る。その後、立花山山頂に向かうことにする。民家を抜けると、大きな樹木の中を登っていく。ときどき休憩を取りながら春の山を楽しむ。出発して1時間余り、大クスの原生林に出くわす。福岡森林管理署の標識には樟の原生林の説明が記されている。「立花山の六合目以上は国有林で、樹齢、三百年を越え、樹高三十米余の原始林約六百本が自生しています。特に東側斜面に多く、昼なお暗い老樟の自然林、本邦唯一と称され樟林の北限地帯と言われています。この原生林は、昭和三十年八月に国の特別天然記念物に指定されています」と。大きな樹木はどうして人々の心を動かすのか。しかも、これだけの数。それに囲まれるというのは、何とも言えない贅沢。

左より龍君、秋山さん、本園、清家さん



立花山山頂には、そこからほどなく到着する。立花山は、柳川藩祖立花宗茂ゆかりの山。小学生の時、春の遠足の行き先はきまって柳川の高畑公園。花見の場所であった。西鉄柳川駅近くにあつて、三柱神社もこの公園内にある。柳川観光の一つは川下りであるが、川下り乗船場に三柱神社の大きな鳥居が今も立っている。

立花山山頂から志賀島を望む

三柱というのが、この立花山に依拠していた立花道雪、婿養子の宗茂、娘のぎん千代の3人を指しているらしい。柳川藩の基礎を築いた功績を称えて三柱神社に祀られている。

私は今回、初めて立花山から眼下を見たが、本当にすばらしい眺めであった。OB総会が開催される休暇村を抱える志賀島が砂州（海の中道）でつながり、美しい姿を見せてくれた。昨年、世界遺産に登録された沖ノ島もはっきりと見えるのであった。朝鮮半島、中国大陸から渡来した人々との密接な付き合いがあったことを思い起こさせる福岡を改めて実感した。10月のOB総会では全国の皆様と一緒にこの風景を味わいたい。



2 土器山

平成28年4月2日（土）

仁比山神社（10:15）→八天神社、土器山登山口（10:42）→親不孝岩→土器山（11:55）
→御神岩→八天神社（13:40）

参加者 永沼 秋山 武富 前原 龍 清家 本園

土器山は、かわらけ山と読む。430m。全山が花崗岩から成り、やや急なところもあった。背振山系は花崗岩でできているとのこと。この後、4月中旬に一人で登った鳥栖にある石谷山もその一つであるが、川が美しい水を湛えている。この時「飛ぶ宝石」ともよばれる青い羽根の^{かわせみ}翡翠を見ることができた。土器山では石谷山のように登る道に沿って川が流れているわけではないが、駐車場のすぐそばにある城原川の水量が豊かで勢いがあり澄み切っている。岩も大きく、美しい。近くには神埼素麵の製麵所もあった。今回の山行は、仁比山神社の12年に一度の大祭、



^{おおおんた}大御田祭の時に参拝しようという秋山さんの提案からであった。神社に参ると、狛犬の代わりに猿が座している。本殿では、美しい水の上に更に透明度の高い神社の水をいただいた。

頂上で、左から清家さんと前原さん
土器山の登山口は八天神社にもなっている。ここに参拝して登った。それほ

ど時間はかかるまいという気持ちがあったためか、予想に反して、結構、長くて疲労感があった。途中、岩に刻まれた仏像にも出会った。頂上に着くと、大きな岩があった。お八天神社上宮 御神体岩

であった。

説明には「北東から眺める土器山は秀麗な神奈備山である。古代に於いては、こういう山は神霊や祖霊が宿るものとして崇められた。神奈備信仰の通例として、山頂に、神々の寄坐す『磐座』と呼ぶ巨石がある。正面の大岩がそれである。岩そのものが御神体であるので、社殿はない。御神体岩の根元や周辺には、願い事のある人達が持って登り、諸願成就のために納めたおびたしい数の土器がある。土器山の名の由縁である」とあった。見事な岩である。その前で写真を撮った。眺めも良い。



左から、龍君、清家さん、前原さん、武富さん、永沼さん、秋山さん

下山すると、暑さを感じるほどになっていた。公園では桜見の人達がいっぱいである。美しい水が流れ出るので見ているだけでも気持ちが良い。その後、国の天然記念物えひめあやめを觀賞することになり、武富さんに案内をしていただいた。花園に近くなると、道端にえひめあやめの幟が立

っている。山の中に入っていくと、花は山の斜面にひっそりと咲いていた。地元、久保泉町の方に説明を受けた。根は1 mにも達するとのこと。

小さいが、花束のように固まって咲いていて何とも言えない魅力的な青紫色である。桜のときと重なり風情のある趣を醸し出していた。来年の花見を忘れないように、自分宛に葉書を書いた。吉野ヶ里遺跡も近い。全国から見に来られるとのこと。花の好きな皆様もぜひおいで下さい。



えひめあやめを上から写したもの

6 現役活動報告

(1) 執行部活動報告

人文学部 3年 山本光慶

現在、本学主将を務めております、人文学部人文社会学科 3年の山本光慶と申します。部活動の近況報告をさせていただきます。

今年は、1年生 11名(男 10名、女 1名)が入部し、積極的に活動してくれています。2年ぶりの女性部員加入に部内の雰囲気も少し変化しているように思います。また、1年生の半数近くが工学部ということもあり、来年度以降の執行体制も考慮に入れながら指導にあたっています。昨年に引き続き、情報共有・意識共有の徹底や問題点の解決に力をいれ、部員間のつながりを深めることでよりいっそう活性化な部活動を目指していきたいと考えています。

最近の部活動では、夏合宿を見据え、ザックトレーニング・ランニングトレーニングを中心に昨年以上に体力面での強化を図っています。さらに今年は筋力向上を目指し、トレーニングルームも使用するなど充実したトレーニングをおこなっています。技術面などでの不安は多少残りますが、縦走・ピストンの各リーダーを中心にまとまったチーム作りができています。

下記に部員構成・執行体制を記載し、短いようですが、以上で近況報告とさせていただきます。

学年	合計			本学			工学部		
	男性	女性	計	男性	女性	計	男性	女性	計
1年	10	1	11	10	1	11	0	0	0
2年	9	0	9	7	0	7	2	0	2
3年	12	0	12	7	0	7	5	0	5
4年	6	2	8	4	2	6	2	0	2
合計	37	3	40	28	3	31	9	0	9

平成 28 年度本学執行部>

役職	氏名	学部	学年
主将	山本 光慶	人文学部	3年
副将	亀田 雄太郎	人文学部	3年
主務	貞光 優樹	農学部	2年
会計	中村 聡秀	経済学部	2年
渉外	山内 健	農学部	2年

<平成 28 年度工学部執行部>

役職	氏名	学部	学年
主将	合志 義亜	工学部	3年
副将	赤田 隆浩	工学部	3年
主務			
会計			

(2) 春合宿報告

人文学部3年 山本 光慶

昨年度の春合宿は、3月5日から8日にかけて、屋久島で行いました。全日程、天候に恵まれ、晴れの屋久島を満喫しました。

■ AP

鹿児島中央までをJRで乗り継ぎ、高速船で安房港へ行きました。その後、番屋峰キャンプ場にてテントを張り、就寝しました。

■ 1日目

朝方に番屋峰キャンプ場を出発し、縄文杉を目指しました。残雪に苦戦しながらも縄文杉・ウィルソン株など屋久島の自然を楽しみました。

■ 2日目

この日はカヌー体験後、オーシャンビューキャンプ場へ移動しました。カヌー初挑戦者が多い中転覆などトラブルもありましたが、大いに盛り上がりました。

■ 3日目

オーシャンビューキャンプ場を出発し、太鼓岩を目指しました。屋久島の自然を一望できる太鼓岩からの眺めは素晴らしく、達成感と感動を味わいました。

■ 4日目

オーシャンビューキャンプ場付近を散策後、宮之浦港にて解散しました。

○まとめ

今合宿では、残雪への対処など反省点もいくつか見つかったものの、けがなく終了できたことはよかったです。屋久島の自然を満喫するという合宿目的を十分に果たし、各部員も充実した時間を過ごせたのではないかと思います。

(3) 平成 28 年度山口大学ワンダーフォーゲル部活動計画表

人文学部 3 年 山本光慶

【新入生歓迎フェスティバル】

今年の新入生歓迎フェスティバルは 4 月 10 日（日）に行われました。今年も多くの新入生がブース見学に来てくれました。工学部の上回生も参加し、部員一丸となってワンゲルのよさをアピールできたと思います。

【県内合同ワンデリング】

今年の県内合同ワンデリングは 5 月 3 日～5 日におこないました。あいにくの雨で急遽予定が変更となりましたが、スポーツやレクリエーションで汗を流しました。

【海浜合宿】

今年も 8 月 11 日～12 日に、萩にある OB の方ご所有のハウスをお借りして海合宿を行わせていただく予定です。ハウス前の海は絶景で、楽しみにしている部員も多い合宿です。また、今年も山口県立大学との合同合宿となる予定です。

【夏合宿】

今年の夏合宿も、縦走パーティーとピストンパーティーに分かれて、北アルプスを山域山域とし、裏銀座と立山をそれぞれのコースとして予定しております。以下、行程表です。

■縦走パーティー

(一日目) 高瀬ダム→烏帽子小屋

(二日目) 烏帽子小屋→三ツ岳→野口五郎小屋→真砂岳→水晶小屋→鷲羽岳→三俣山荘

(三日目) 三俣山荘→三俣蓮華岳→双六岳→双六小屋→硫黄乗越→千丈沢乗越→槍ヶ岳山荘

(四日目) 槍ヶ岳山荘→槍ヶ岳ピストン→槍ヶ岳山荘→殺生ヒュッテ→天狗原分岐→ババ平→一ノ俣→河童橋

■ピストンパーティー

(1 日目) 室堂→ミクリガ池→雷鳥沢キャンプ場

(2 日目) 雷鳥沢キャンプ場→室堂ターミナル→一ノ越山荘→雄山→別山→別山乗越→雷鳥沢キャンプ場

(3 日目) 雷鳥沢キャンプ場→室堂ターミナル→一ノ越山荘→竜王岳→鬼岳→北峰→室堂山展望台→室堂ターミナル→雷鳥沢キャンプ場

(4 日目) 雷鳥沢キャンプ場→室堂ターミナル→美女平→立山→電鉄富山→富山

【追い出しコンパ】

今年の追い出しコンパでは、8 名の先輩方（うち工学部 2 人）を送り出させていただきます。本学の先輩方にはもちろん、工学部の先輩方にも非常にお世話になってきたので、感謝の気持ちを込めてお送りしようと考えています。

【春合宿】

今年度の春合宿は、例年同様に南の島でのトレッキングにしようかと考えています。これから部員と話し合いをしていき、計画を進めていこうと思います。

7 編集後記

今回のOB通信を編集させていただきました、農学部4回生の浅川と申します。今年度の事務局長も務めさせていただいております。

私が3年前に入部した時と比べ、現在のワンダーフォーゲル部はますます規模が大きくなってきております。今年度も11名の新入生が入部をしてくれて、部員数が1~4回生で約40という大所帯となりました。今年度はここ数年いなかった女性部員が入部してくれたということもあり、活気にあふれているように感じます。

近頃は夏合宿の安全対策のために部活に顔を出す程度ですが、夏合宿に向けて必死にトレーニングを積んでいる様子が伺えます。2・3年生が中心となって活動している様子を見て、頼もしく成長した後輩たちをうれしく思います。そのような姿を見ていると、自分が活動をしていた頃のことを思い出し、懐かしい気持ちになります。

私はというと、この編集後記を書いている現在も就職活動の真っ只中という状況です。さらに自分の卒業研究の実験に追われる日々を過ごしています。そのため、事務局長職を務めさせていただく中で、時間を取られ十分に職務をこなすことができていないということが現状です。しかし、本部役員の方々をはじめとする多くの方にその都度助けていただき、誠にありがとうございます。

最後になりますが、今回OB通信に寄稿して下さった皆様、そして編集に携わって下さった皆様に、深く感謝申し上げます。